

**第507回 4月25日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	大村 英昭
木下 明美	倉光 弘己
黒田 勇	櫻井 美幸
東野 博昭	

◆ 毎日放送開局55周年記念特別番組

ラジオドラマ「博士の愛した数式」

3月19日（日）19時30分～21時00分放送

毎日放送の第507回番組審議会は4月25日大阪市北区の本社で開かれ、ラジオドラマ「博士の愛した数式」を審議しました。この番組は、記憶障害を負った老数学者と、家政婦とその子供の3人の心のふれあいを描いた小川洋子のベストセラー小説をラジオドラマ化したもの。3人を結びつけるのは博士が愛する「数」と「阪神タイガース」。

委員の主な意見

- *記憶とは何かを考えさせる完成度の高いドラマだが、ストーリーの展開やシチュエーションにリアリティーを欠く所がある。阪神タイガースの試合のシーンがあるのに、どこの野球場かわからないし、出演者全員が共通語を話して、どこの話かわからず情景が見えにくい。原作がそうなのだが、ラジオドラマはもう少しリアリティーがあったほうがいいのではないか。
- *原作を読み、映画も見たが、この番組は野球に力点を置いている。阪神タイガースにまつわるエピソードは、実際の野球中継の音声を使い、関西の局のストックを売りにした脚色がよかった。
- *ある種のノスタルジーをかきたてる部分があって、そういう意味で成功している。ラジオで、私がいいと思うのは、一つはドラマ、もう一つは原作の朗読。朗読は

声優の読み方によっては、ドラマに勝る迫力を持ち、聴取率を稼げるのでは。

* テレビドラマは、受け身で見るわけだが、ラジオドラマというのは、いろいろな想像をし、自分で物語をつむいでいける。久しぶりにいいドラマを聴かせてもらった。生々しい方言は必要はないと思うが、語られる言葉が標準語でいいのかどうか。

* ドラマ作りは、題材選び、放送化への権利取り、俳優のキャスティングなど、番組化への前段階が重要。今回はラジオドラマ化への着想、脚本がすごく、評価に値する。番組をポッドキャスティングでいつでも聞けるようにというのも期待したい。

* ラジオというと、中高年以上をターゲットにしているようにも思えるが、こういうおもしろい、いい番組をどんどん若者にも聴いてもらいたい。

* 認知症とか記憶障害とかに代表される高齢化社会でのいろいろな問題が生じてきているが、人としてどう生きるのがいいのか、何が大切なのかを考えさせてくれる、心温まる番組。

◆委員の交代について

放送作家の東野博昭氏が毎日放送番組審議会委員に就任、4月例会に初参加されました。

倉光委員が4月例会を最後に退任されました。

後任には大阪学院大学教授の國定浩一氏が就任されました。

◆平成18年度毎日放送番組審議会委員について

平成18年度毎日放送番組審議会の委員長に荒巻裕氏、副委員長に櫻井美幸氏が選任されました。毎日放送番組審議会のメンバーは次の通りです。

荒卷 裕委員長

櫻井 美幸副委員長

伊藤 芳明委員

大村 英昭委員

木下 明美委員

國定 浩一委員

黒田 勇委員

東野 博昭委員